

取り扱い説明書(簡易版)

2004年7月30日
東邦大学理学部情報科学科
菊地賢一
kikuchi@is.sci.toho-u.ac.jp
<http://www.kikuchi-lab.jp/>

○はじめに

本パッケージを利用して起こったいかなる不利益などに関して、作者は一切責任を負いません。なお、著作権などは、作者である菊地賢一にあります。また、再配布を希望される場合には、お手数ですが、上記の連絡先までご連絡ください。

○配布用パッケージの内容

CBT.exe: テスト本体のプログラム CBTINIT.exe: 初期設定用プログラム
CBTSUMMARY.exe: 結果集計用プログラム
COMDLG32.OCX: プログラム実行に必要なランタイムファイル
CBT.dat: サンプル用初期設定ファイル itempool.dat: サンプル用項目プールデータファイル
itempool.xls: サンプル用項目プールファイル
itempool フォルダ: サンプル用の問題ファイルが入ったフォルダ
examinee.xls: サンプル用受験者ファイル examinee.dat: サンプル用受験者データファイル
README.pdf: この文書のファイル

○配布用パッケージの設定

配布時には、以下のように設定されています。設定ファイルは、CBT.dat です。

項目プールディレクトリ: itempool	項目プールファイル: itempool.xls
項目プールデータファイル: itempool.dat	項目プールの項目数: 22
テスト名: センター試験英語	問題数: 20
受験者ファイル: examinee.xls	受験者データファイル: examinee.dat
受験者数: 10	練習問題の数: 2
問題の提示順序: 番号順	

○付属データ

本パッケージに付属して配布している問題は、センター試験・共通1次試験の英語の問題から抜粋したものです。

○初期設定

実施するテストに関する設定を行う。作業ディレクトリに、初期設定ファイル CBT.dat というファイルが作成される。

1. CBTINIT.exe を実行する。設定項目を入力後、【設定】ボタンをクリックする。

項目プールディレクトリ	itempool¥	
項目プールファイル	項目プールデータファイル	項目プールの項目数
itempool.xls	itempool.dat	22
テスト名	問題数	
センター試験英語	10	
受験者ファイル	受験者データファイル	受験者数
examinee.xls	examinee.dat	10
練習問題の数	問題の提示順序	設定
2	番号順	

項目プールディレクトリ

問題文のファイルがあるディレクトリ。絶対パスか、実施時の作業ディレクトリから見た相対パスで示す。

項目プールファイル

項目情報の入っている Excel ファイルのファイル名。項目プールデータファイルがあれば、実行時には必要がない。

項目プールデータファイル

項目情報を書き出すファイル名。項目プールファイルの内容をバイナリデータにしたもの。

項目プールの項目数

項目プールに含まれる全項目数

テスト名

テストの名前。実施時に、ウィンドウ上部のタイトルバーに表示される。

問題数

実施時に出題される最大の問題数

練習問題の数

実施の前に出題される練習問題の数

問題の提示順序

出題される問題の順序。問題の番号順とランダムが選択できる。

2. 確認画面が表示されるので、内容がこのままで良ければ、【確認】ボタンをクリックする。修正が必要な場合には、【修正】ボタンをクリックする。

3. 項目データファイルを作成する場合には、【はい】ボタンをクリックする。すでに作成済みで必要ない場合には、【いいえ】ボタンをクリックする。

今回の配布用パッケージでは、itempoolフォルダの中に22問の問題がある。項目プールファイルには、1行につき1問の情報を記述する。A列から順に、問題ファイル名、選択肢数、正解の番号を入力する。

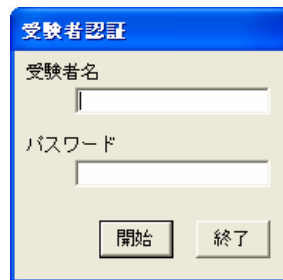
また、試験に先立って練習問題を出題する場合には、練習問題の数を指定する。項目プールファイルの先頭から練習問題数分の問題が、練習問題として出題され、試験は残りの問題で行われる。番号順に出題を指定した場合には、練習問題を除いて、上から順に出題され、ランダムの場合には出題候補の問題の中から、ランダムに出題される。

4. 受験者データファイルを作成する場合には、【はい】ボタンをクリックする。すでに作成済みで必要ない場合には、【いいえ】ボタンをクリックする。

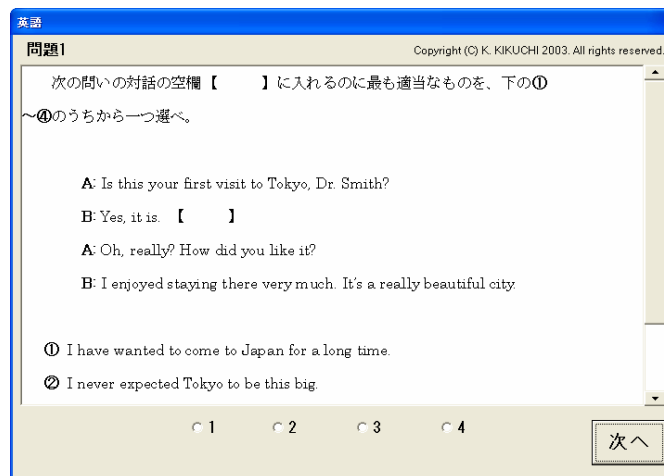
受験者ファイルには、1行につき1人分の情報を記述する。A列に受験者名、B列にパスワードを記入する。空欄は許されない。各受験者の結果は、【受験者名.dat】というファイルとして保存される。

○テストの実施

1. CBT.exe を実行する。作業ディレクトリに初期設定ファイル CBT.dat を置くこと。また、指定した項目プールデータファイルと受験者データファイルも置いておく。なお、作業ディレクトリには、history.dat という一時ファイルが作成される。はじめに、受験者の認証を求められるので、受験者名とパスワードを入力する。



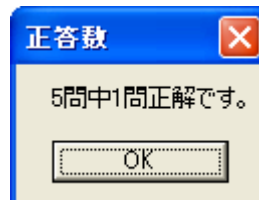
2. 受験者は、解答を下部のラジオボタンで選択してから、【次へ】ボタンをクリックし、テストを実施していく。



3. 指定した最大の問題数まで出題されると以下のウィンドウが表示され、テストが終了する。



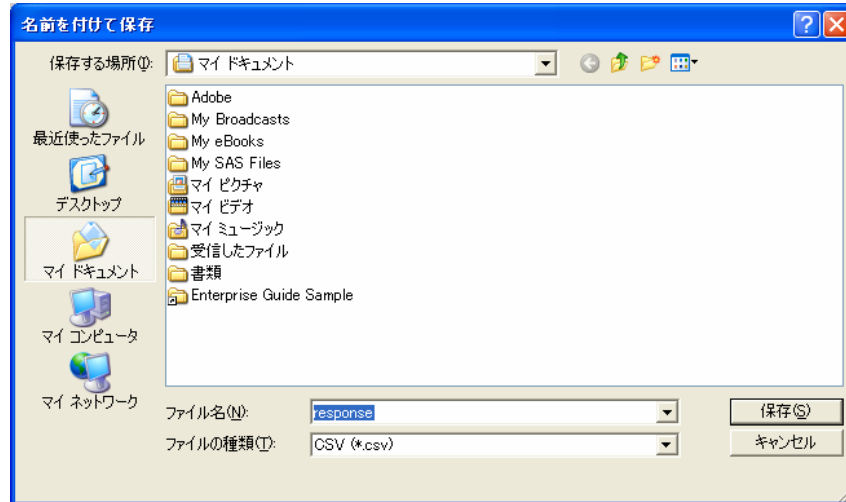
なお、最後に、正答数が表示される。



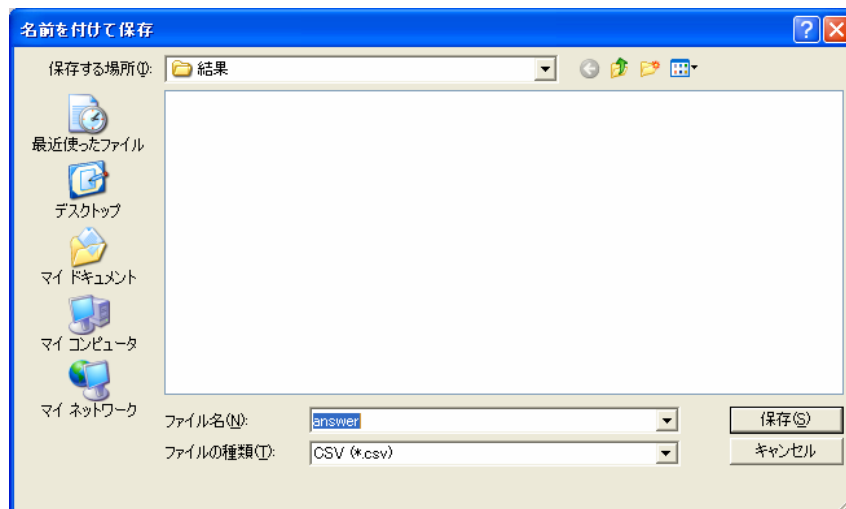
○テスト結果の集計

まず、各ユーザの結果ファイルと同じディレクトリに置き、CBTSUMMARY.exe を実行する。結果ファイルの置いてあるディレクトリを指定するためのダイアログにより、ディレクトリの指定を行う。ディレクトリ内の拡張子が dat である全てのファイルを、集計する。各ユーザの結果をまとめて、2 値データのファイルと解答番号のファイルの 2 つのファイルとして保存する。

ディレクトリの指定を行った後、保存する 2 値データファイルのファイル名の指定を行う。



続いて、解答番号を保存するためのファイル名を指定する。



保存されるファイルは、どちらも CSV 形式で、行方向には受験者が並ぶ。1 列目には受験者名、2 列目以降は、項目番号順に結果が書き込まれる。対応する問題に対して、2 値データファイルには、正答は 1、誤答は 0 が、解答番号ファイルには、実際に解答した番号が保存される。なお、両ファイルとも、未出題の問題は、空欄となる。